

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	地域活動への参加の際に事業所の説明や活動報告などを繰り返し行う。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	最近より地域ミニデイへのお手伝いを開始している。行事内容を把握して事業所全体で参加や協力ができるよう努めていきたい。又「認知症」に対しての理解をもとめ勉強会を開催しなければいけない。

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んではいないが「何ができるのだろう・・・。」と言う様な話し合いは何度か行われている。	○	老人会の集まりで認知症の理解をしてもらうなど学習会を開催する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施意義は理解している。又、評価内容を職員全体で検証し改善項目の具体策を話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一度は会議を行ったものの様々な理由でその後開催されてはいない。	○	早急に会議の開催をしなければならないが今一度、家族への理解をもとめ説明する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関しては事業所や管理者のみで抱えていることが多いと思う。	○	市町村担当者へ事業所の実情やサービスの取り組みを伝える。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については、リーダー研修などで学ぶ機会をつくっている。現在、成年後見人制度を利用している方は2人おり、その家族からも教えてもらう事がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等へ参加し他の職員へも周知させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には十分な時間をとっている。契約書などを持ち帰ってもらい内容を確認していただく。質問事項にも対応している。又、別途料金発生の際には事前に金額を提示し許可を得ている。看取りに関しての質問等は極めて少ないが、質問があったことに関して適切に答えられるか不安である。</p>	<p>○</p> <p>特に看取りに関しては質問の内容をマニュアル化してはどうかと検討中である。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度から不満や苦情を感じ取り利用者本位の支援ができるよう心がけている。定例ミーティングなどでも利用者本人の苦情や不満は何かを細かく話し合っている。各担当は普段からの様子を記録に書きとめている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会の際に伝えたり、写真などで報告したりしている。県外の家族へは職員が電話を代行でかけ、会話ができるようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時だけではなく電話などでも相談を聞いているが外部者へ表せる機会は設けていないと思う。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議への参加や、市町村の相談窓口等、家族が意見を言える機会や場所があることなどを繰り返し説明する。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くように心がけているが職員本人からの苦情は言い難い部分も多いので完全に把握していない可能性もある。</p>	<p>個人面談を予定している。その中で要望などが聞けたらと思う。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜間不眠傾向にある利用者の疲労が蓄積しないよう職員が交代で添い寝をしてあげられる時間を確保している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最小限に抑えられるよう精一杯努力をしているが、やむを得ない場合でも今までとケアの食い違いや見解がないようにしている。引継ぎの際には離職する職員ができなかったことや新しい職員ゆえに期待できる支援を家族の意見を聞きながら決め取り組む姿勢を見せている。</p>	

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ヘルパーの資格や、様々な研修への参加を呼びかけているが参加する職員が極めて少ない。</p>	○	<p>研修への参加呼びかけの工夫と参加時に利用者負担にならない勤務体制を考える。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡会がありその中で研修や勉強会がある。事例をとおして他事業所での対応法や意見を聞きケアに活かしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎月の勤務はほぼ職員の希望どおりに聞き入れるようにシフトしている。年休に関しても交代で取れるようにしている。建物の構造上職員の休憩室はないが30分の休憩時間を交代で取っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>働きながら職員が資格を習得できるよう支援をしている。又、顧問に労務管理士がいるので職員の就業規則等は適切に定められている。 職員の能力評価は行われていない。</p>		
<p>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の面談で家族や本人に関係した方達より聞き取りを行っている。本人からの直接の相談はなくとも普段の生活から本人の求めている事は何か困っている事はないかを考えている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでのサービスの利用や家族の苦労など入所事前に関くようにしている。</p>		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には「グループホーム」の入所に該当する方なのかを話し合っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学等は常に行われており、いきなりのサービス開始はない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に感謝の気持ちと人生の先輩であるということを意識した関係づくりをおこなっている。会話の中にもそれを取り入れている。「教えてもらう」という場面をつくり三味線や詩吟、縫い物など、できる方から教えてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	取り組んでいる事などの経過報告や暮らしぶりを見ていただいたりして本人を共に支えている関係を築いている。		職員側からも協力してほしいことを明確にし、家族とも情報交換を密にする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の時なども関係が保てるような会話に工夫している。例：「どんなお母さん、お父さんだったのですか・・・。」とか「得意のお料理は？」楽しい話題を心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	つながりが途切れないよう面会時にこえ掛けをしたりしている。又、定期的に自宅に帰ったり、外泊することで本人のこれまでの大切な場所を忘れてしまわないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入りお互いを結びつけるような会話をしたり、関係性について職員間で情報を密にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居したホームへ面会に行ったり、ご家族の方とも近況を話ししたりしている。		転居した直後だけではなく継続的な付き合いをする。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と外出したいという本人の要望を家族にも協力してもらい実施したりしている。家族の行事や法事への参加など。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族も知らないことが多くすべて把握はしていない。	○	本人のプライバシーや先方の立場を考え年賀状や面会依頼などをおこなう。プライバシーに配慮しながら情報を収集する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄管理表や日報などで状態は把握している。特別な変化があれば情報を共有している。「できない」と決め付けることはしないでさりげない援助をすることで「できる」ことにつなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、担当者の意見を介護計画に反映していると思う。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時は情報を共有している。現状に即した対応もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入している。情報の共有も行っているが介護計画に反映している内容を全職員が理解してはいないので見直しに活かされていない。	○	介護計画の把握をし、見直すところはないか話し合いをする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や外出など家族や本人の希望に応じて対応していると思う。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一部の方ではあるが、地域の小学校の学校行事に参加したりしている。警察や民生委員の方達との連携はまだとっていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅マッサージの利用している方が1名。訪問診療利用者が4名。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	残念ながら協同はしていないと思う。	○	課題をもった運営推進会議を開催しなければならない。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際主治医は本人と家族の希望を聞いている。訪問診療を4人の方が受けている。家族が受診する際に口頭での状態説明では医師へ伝えにくい為に経過報告書を持たすようにしている。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	事業所の対応としてできる事とできない事の事実を家族にもはっきりと伝える。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段から気をつけて入るが利用者と職員の関係が近くなると気が付かないところで言葉使いが悪くなっていると思う。定例ミーティングなどであらゆる場面での関わり方を点検している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思疎通が困難な方でもこちら側のペースで何毎も判断しないで必ず説明や選んでもらうことをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるができるだけ個別に対応している。食事に時間がかかる人もいるが家族とも連携し本人のペースを保っている。買い物や外出は一部の方に限られてしまっている。	○ 外出できない日でもその人らしく暮らせるよう普段から本人の希望や、関心に興味を持つ。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	数名の方はいきつけの美容室や理容室がある。又、2ヶ月に一度美容師が出張で散髪(希望者のみ)している。又、美容師の方も認知症の方を理解しておりスムーズに対応してくれる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は個人にあった状態にしている。又、お箸も本人の能力によって変えている。調理や味付けにも参加してもらい、茶碗洗いにも参加してもらっている。又、完成した献立を写真にとり今後の参考にしていく。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分補給はお茶に限らず、(コーヒー、ココア、ポカリスエット、野菜ジュース)等・以前はお酒を飲まれる方もいたが現在はいいない。	

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理表で職員は細かく把握している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中にも入浴できるように職員の勤務形態は工夫されている。基本的に入浴日は一日越したが、季節や本人の希望、必要性に応じて入浴は可能である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠の方へは、疲れが蓄積しないように職員が交代で午睡をするようにしている。食事の途中にいなむりして進まない方へは一時中断してから再開している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜のつくろいやお茶パック入れ、洗濯物たたみ、新聞紙やチラシ折など出来る仕事を頼み感謝の気持ちを心からのべている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方は一人いる。散髪などの支払いには直接本人がお店の方に支払っている。管理は本人が行っている。	○	買い物などの場面でも本人に支払ってもらったりしてはどうか
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調と天気によければ短時間でもドライブなどへ誘っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て行われている。本人や家族の会話などから希望の場所をあげ、事前に下見に行ったりしている。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	番号を自らプッシュできる方は、番号間違えがないように職員が側で見守りしている。困難な方には定期的に職員が電話をかけている。その際に子機を使用し、ゆっくりしゃべれるように環境を整えてあげている。手紙のやり取りはない。		担当と一緒に年賀状を書く事が決まっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者へはお茶や茶菓子を出したり、本人の居室へ案内したり歓迎している。職員はできるだけ立ち入らないよう気配りをして自然に関係が保てるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間では常に話し合われている。家族等にも対応策を伝えている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	殆んど鍵をかけることはない。その必要性があれば家族とも話し合いが持たれている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守っている。夜間は時間毎に、個人にあった方法で確認をしている。	○	玄関の近くのお手洗いは介助中に、中が見えてしまうので目隠しになるような工夫が必要である。(のれん・ドアストッパー)を検討中である。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人にとって、注意物品は何かを職員で把握している。包丁に関しては時間毎の管理をおこなっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止の為歩行不安定者の洗面時は椅子を置いたりしている。又、誤薬がないように2重、3重のチェック体制を行っている。事故報告書やヒヤリハットをもとに事故防止案を具体的に話し合っている。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>応急手当や初期対応のマニュアルはあるが職員全員がとっさに対応できるか不安である。</p>	<p>○</p> <p>事故が起こった時の対応法を個人別に作成中である。その対応法について職員間でイメージ訓練をする予定である。緊急時をイメージして訓練の回数を増やしていかねばならない。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域の人々へ具体的な協力願いはしていない。</p>	<p>○</p> <p>マニュアルを作成し地域の人へも理解と協力をお願いするよう働きかける。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>職員間では常に話し合われている。家族等にも対応策を伝えている。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝のバイタルチェックをおこなっている。少しでも普段と違う点に気づいたらすぐその情報を職員間で共有し、看護師や主治医と連携し対応することになっている。家族への報告も速やかにおこなっている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬のセットは夜勤者が行うことになっている。誤薬が無いように、2, 3回のチェックが行われている。目的や効用についてもすぐに理解できるようになっている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>出来るだけ自然な排便があるよう毎日ヨーグルトを10時茶に時に提供している。便秘傾向の方は主治医に相談している。便秘薬の服用に関しては状態により調整している。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアや就寝前には義歯の洗浄を行って施行後はチェックしているが、介護拒否される方への口腔ケアはできない日もある。</p>	

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や食事摂取表にて把握している。又、嚥下が困難な方へはトロミや甘さを加えて提供している。		栄養のバランスは管理栄養士にアドバイスをもらう予定である。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ペーパータオルを使用、感染源となりうる場所はその都度消毒をしている。インフルエンザの摂取率は職員・利用者100パーセントである。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材によってまな板は使い分けしている。又、食材の買い物は当日行うようにしている。業務日誌に安全確認の項目をもうけ定時にチェックしたり、調理に入る前に衛生管理表の項目の確認とチェックを実行している。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口は完全に締め切らないで網戸をしている。利用者にとっても閉鎖感がなく虫なども入ってこないし開放的だと思うがホーム駐車場が狭く車が2台入っていると入り口をふさいでしまう事がある。又、外壁のコンクリートは寒々しく感じる。	○	駐車場の工夫をする。外壁はベンチのまわりに沖縄らしい季節感のある絵をペイントしては？と検討中である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食後の午睡時間はホーム内の明かりを落としリラックスできるようにしている。職員のスリッパの音も以前よりよくなっている。ミキサー等を使用する際には「○○さん大きな音がでるからびっくりしないで下さいよ」等、ひとこえ掛けるように心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ居室に引きこもらないように声掛けしているが本人から居室へ行く際には無理強いはいしない。		天気の良い日はホーム前で過ごしているがそこでお茶等もできたら良いと思う。洗濯干し場のバルコニーのスペースを利用しようと検討中である。

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのぬいぐるみや、寝具類等を使用しているが、家具等に関しては必要最低限にとどまっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアや居室は朝や必用に応じて換気を行っている。居室内には温度計を設置している。トイレは決められた時間の清掃ではなく必要に応じて清掃し消毒を心がけている。入浴の際、脱衣所にはストーブを置き浴室との温度差がないようにしている。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所で立位状態からバランスが崩れそうな方の為に所定の位置に椅子が置かれている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入浴日を忘れがちな方にはカレンダーへ丸印をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場にはベンチがあり外気浴する際に使用している。季節の花を利用者と何度か植えてみたが管理不足で外観はぬくもりが感じられない。	○	すぐに枯れてしまう草花ではなく外壁に利用者が喜びそうな絵や写真をパネルにしてさりげなく演出できないものか検討中。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム 光風の家)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者と一緒に調理する（一部の方ではあるが）。これからも続けていきたい。